札苗中学校教育のキーワード「心をかたちに　～つたえよう、こたえよう、つながろう～」

緑　野

札幌市立札苗中学校　学校だより
令和２年度 第８号（４４５号）
令和２年(2020 年)11 月 25 日発行
発行責任者　金澤　敦
http://www.satsunae-j.sapporo-c.ed.jp

45 回目にして初めての

第 45 期生徒会長　五十嵐　るな

10 月 9 日金曜日、45 回目にして初めての学校祭が開催されました。今年度は感染症の影響で校内放送というかたちで、生徒は体育館に集まらず各教室での鑑賞となりました。発表も各部門、事前収録・編集したものでした。

初めてならではの苦労も多くありました。第一に、前例がないため模倣が不可能という点。まさにゼロからの制作でした。第二に、編集をして完成という点。内容を決め、構成し、練習。その後、撮影して編集という流れでした。生徒会部門の編集は、生徒内で賄いきれず、先生のお力添えをいただきました。もし、次回があるならば、全て生徒同士で賄いきれるよう計画を立てて頑張りたいと思います。

一方で、これらの苦労は初めてならではの経験でもありました。決められた制約の中で、最大限おもしろく、楽しくと各部門「創意工夫」「試行錯誤」したと思います。その際には、自分の意見と相手の意見の衝突や、やむを得ず…ということもあったことと思います。生徒会ではそのようなことがよくありました。なぜなら、役員それぞれが自分の意見をもっているから。学校祭を開催できたことで、たくさん意見交換することができました。苦労も多くありましたが、得がたい経験だったと思います。

学校祭を開催できるよう尽力してくださった先生方、ここまで全力で一緒に走ってきてくれた 45 期の皆さん、45 期に協力してくれた皆さん、家族…関わってくれた皆さんに感謝しています。

学校祭のこと

１年１組　坂本　恋花

私の部門は装飾でした。その中でも、最初にリーダー・副リーダーを決めるとき、手を挙げてよかったなと思います。理由は、皆の意見をまとめ上げ、装飾を決め、指示をし、作りたいものを作れたからです。皆の協力があってこその装飾物だから、放課後活動まで残ってくれて本当に感謝しかないです。

私が一番大変だった装飾は、バルーンアーチです。なぜ大変だったかというと、風船を膨らませるのももちろんですが、何よりも風船を何個も何個も結び付けなきゃいけなかったことです。結び付けたあと、更に両端の土台を作らなきゃいけないから、作った風船をまた更に結び付けなきゃいけないから、もう大変でした。ただ、皆と話しながら作っていたので、そこまで苦ではありませんでした。

装飾の活動が終わるのは少し悲しいけれど、良い思い出になりました。来年も楽しみです。

学校祭

１年６組　蛯名　真桜

10 月 9 日金曜日に学校祭がありました。６組は、縫工班、紙工班に分かれて作業の紹介をしました。私は、紙工班で、牛乳パックから再生紙を作るまでの工程を３分クッキングにして紹介をしました。私はアシスタントの役で、気をつけたところがあります。

一つ目は、笑顔でセリフを言ったことと、二つ目は動画で聞こえるような大きな声を出したことです。自分も撮影が終わったあと、自分の声を確かめたらしっかり声が聞こえていたのでよかったです。あと、撮影班と装飾班に分かれて活動もしました。私は、装飾班の活動で背景づくりと見どころ紹介

ポスターを作りました。私の頑張ったところは、見どころ紹介ポスターです。６組の魅力を出すために絵や色合いを一生懸命考えて作りました。

学校祭当日、他のクラスの発表を見ました。その中で一番印象に残っている発表は、二つあります。その一つ目は、「今日から俺たちは」です。印象に残った理由は、一人一人役の演じ方がとても個性的で、服装、セリフもすごく本格的で素晴らしいと思いました。もう一つは、生徒会の発表です。いくつかあった中で、一番印象に残った発表は、「ディスタンスマン」です。学校祭動画の鑑賞の見方やソーシャルディスタンスなどを、面白くわかりやすいように動画を作って全クラスに伝えていて、さすが生徒会の発表だと思いました。

今年は新型コロナウイルスの影響で、動画をとって発表することになってしまいましたが、６組みんなで一つの動画を作れたのでよかったです。

「今年」の学校祭

２年４組　中村　はるな

昨年とは少し違う今年の学校祭でしたが、部門ごとにそれぞれ良いものができたと思います。私は昨年と同じステージで2年目ということもあり、多少慣れはあったはずですが、カメラを使って撮る、シーンの撮りわけなど大変なこともありましたが、メリットが多くあり楽しかったです。

自分も含め、メンバーが一つになって色々なことに取り組んでいたこともあり、クランクアップになったときには、みんなで喜びました。特別、誰かが輝くよりみんなで輝けたと思いました。

行事が消えていく中で、一つ学校祭ができたのは本当によかったです。悪目立ちする人もいなくて、愉快なメンバーで終われて、一人も欠けることなくできて、笑顔以外見ない撮影でした。他の学年の動画もおもしろかったです。

学校祭を終えて

３年２組　三田村　美伶

今年の学校祭で、私は、発表部門のプロジェクトリーダーを務めました。今年は新型コロナウィルスの影響で動画を作成し発表するという新しい試みで、楽しそうという気持ちはありましたが、半面、しっかりできるのかという不安もありました。撮影は順調に進みましたが、音が小さかったり、撮影する場所を探したりなど、少し大変なところもありました。

撮影がすべて終わったのは、学校祭本番の３日前で、そこから編集が始まりました。パソコンがスムーズに動かず、作業が思うように進まなかったりしましたが、プロジェクトメンバーたちや、部門のみんなの協力により、なんとか動画を完成させることができました。思った以上によく出来て、とても達成感を感じました。みんなが参加できるようなクイズも入れたので、当日は、みんながクイズに参加し盛り上がっていました。この時も達成感を感じた瞬間でした。

今回の経験で味わった、１つのことを最後までやり遂げたときの達成感や充実感を忘れず、今後も学校生活や受験勉強につなげていきたいと思います。

校内を彩る装飾

動画を見ているクラスの様子